OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	癌と人　第1号　目次
Author(s)	
Citation	癌と人. 1973, 1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/24209
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

＊ 表紙絵解説

「蟹」のいわれ

蟹の絵は阪大微研の川俣教授にお願いして描いてもらったものである。

癌に関係ある学会のシンボルマークに蟹の図案化したものがよく用いられている。

癌と蟹の関係の歴史は遠くギリシャ時代にさかのぼる。ギリシャの医聖ヒポクラテス著述のところどころに，今日私どもがいう癌と思われる記録がある。ヒポクラテスはそれを「カルキノス」と呼んでいる。カルキノスというのは日常一般に用いられていた言葉で，蟹のことである。ヒポクラテスが記述しているという病気（癌）の格好が蟹に似ていたのでそれを呼び名とした。

今日，欧米では日本でいう癌をカルチノーマと呼んでいる。それはカルキノスという言葉からきたもので，両者は同義語である。

ヒポクラテスはカルキノス（蟹）という日常語を純然たる医学語とした人である。癌と蟹の関係はそれ以来続いている。

No. 1　目　次

発刊のあいさつ…… 1
理事長　釜　洞　醇太郎

大阪癌研究会の歩み…… 2
常任理事　芝　　茂

進行・再発，胃癌に対する外科的がん化学療法 — 最近の動向 —…… 5
田　口　鐵　男

α-フェトプロテインの癌の診断的意義…… 7
甲　田　徹　三

吹田市・箕面市での乳癌の集団検診について
……10
中　野　陽　典

ガンと結核…… 14
理事　堀　　三津夫

大阪癌研究会とは……15

編集後記……18